

(様式第4号)

## 審議会等付属機関 会議概要

1 審議会名	上田市公文書館運営協議会 (第12回)
2 開催日	令和6年3月26日(火) 午後2時00分から午後3時30分まで
3 会場	上田市公文書館2階閲覧室
4 出席委員	小平委員、児玉委員、田中委員、相川委員、中村委員
5 市側出席者	池田総務課長、浅野公文書館長、倉島公文書館主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
6 会議概要作成年月日	令和6年3月28日

## 協議事項等

(開会)

- 1 人事通知書の交付
- 2 自己紹介
- 3 会長選出
- 4 会長あいさつ
- 5 会長代理の指名
- 6 議事

(1) 令和5年度事業報告について

- 事務局より、資料に沿って説明
- 意見・質問等：次のとおり

(委員) 令和5年8月6日の講座は参加者が0名であったとのことだが、今後は企画展の案内と重ね、両方とも見てもらう形にしてみてもどうか。来館者が両方見てくれるようになると有難い。

(事務局) 倉澤専門事務員が企画展の構成を担当しているが、来年度は講座を一本担当してもらおうかと考えている。企画展示に関連した講座が出来ると思う。また、相乗効果が生まれるようなことも引き続き考えていきたい。

(委員) 令和5年度新規登録目録増数と令和5年度リテンションの移管数が2,000冊程の差があるがどういう差なのか。

(事務局) リテンションの数字は毎年度、本庁等から移管してきた文書数になるが、その数字より目録増数が2,000冊以上多いのは、本庁舎建替えに伴い大量に移管してきた文書が含まれているための差である。

(委員) 本庁舎建替えで発生した文書はあとどのくらいあるのか。

(事務局) 整理状況としてはほぼ全ての整理は完了している。しかしながら、それを登録する作業がもう一段階あり、全ての登録が終わっていないため、次年度の増数の中に含まれる予定で、全ての登録が完了する。

(委員) 長いスタンスでみるとおおよそ廃棄対象文書のうち10%~11%がリテンションの結果、ここに移管されてくるということではよろしいか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) ジャパンサーチへの登録はとても良いことであると思う。国立国会図書館に繋がっているようであるが、すぐに大きな反響は無いとは思いますが、何か利用者からの反響はあったか。

(事務局) そこまで突き詰めておらず、ここから検索して当館の文書に辿り着いたという話は個別具体的には聞いていない。先日、関西方面の大学の先生が閲覧のため来館されたが、直接当館の検索システムにアクセスをされたのかどうか分からないため、その効果を計ることはなかなか難しい状況である。

(委員) 現在はこれが主流になっており、全国に発信が出来る機会である。国会図書館に行かずとも資料が検索できるようになっている。資料も膨大であるためそういった情報機関をこれからも活用して欲しい。

(事務局) それと共に、今はまだ5点しか登録されていないが、さらにデジタルアーカイブの点数を増やしていくことが必要であると思う。ただ今のところは我々職員だけでは簡単に出来ないなので、ゆくゆくは職員がこういった作業が出来る形になっていければと思う。そのためには機材の準備なども整えデジタル化を進め、デジタル化した文書の収蔵点数を増やしていければと思う。それにより、多方面からの検索で当館に行き着くことになるであろうし、ホームページとの紐づけも完了しているので、辿り着いた方々にこれを活用して欲しいと思う。

(委員) 市内の図書館間では検索の連携体制が取れていると思うが、公文書館の情報は入っているのか。

(事務局) 図書館は「エコール」という情報ネットワークがあるが、図書館の蔵書検索しかできない。したがって、「エコール」からは公文書館の文書の検索が出来ない。しかしながら、マルチメディア情報センターで博物館資料の一部等をデジタル化したものを横断検索出来るシステムを作成しているので、社会教育施設間の資料が検索できるような取組がされては来ている。

(委員) ぜひ進めて欲しい。

(委員) 今年度寄贈された旧役場文書については、個人が持っていたのか、それとも公民館施設にあったのか。

(事務局) 書店様から寄贈していただいた。かつて公文書を書店に預けるような慣習があったようである。

(委員) 私も関わっていたのだが、先代の社長から、公文書が倉庫にあるのだが新たな移管先を探してくれないかと依頼を受けた。社有の工場があり、その2階で資料の閲覧をさせてもらい目録も作った。しかしながら、いざ引き取りに行ったところ、200点以上あった資料が一部無くなっていた。工場の権利が第三者へ移ったことが関係していると思う。浦里小学校の学校誌であるとか、神川小学校の書類など、業者の方が来て公文書と書籍を交換していた経過があるようで、それが眠っていたようである。私が仲介し、残っていた公文書はこちらに移管された。

(委員) 業者というのはいわゆる紙屑屋などが。

(委員) 古書店と聞いている。

(委員) 以前、県立歴史館に勤務していた時に大きな段ボールで78箱を天理大学から無償で頂いてきたことがあった。大学側が大阪の書店から優良な資料を購入した時に、こういう良い資料が保管されているのだが大学で活用するかと書店から預かったものの、大学内でも教授も学生も手を付けず埃を被ったままであったそうだ。長野県の全市町村に及ぶ文書であり、明治、大正、昭和初期の文書であった。どのような経緯で古書店に出てしまうのか経緯はわからないが、箱に入っていた資料は和紙を使っていた時代の役場文書である。色々聞いてみると、昔は紙を作るパルプに和紙を混ぜ込みながら作っていた経過があるようで、紙屑買いの人達が、そういったものを買集めていた時代があるようだ。江戸時代は公文書を庄屋等できっちり残しているのだが、明治の末から大正、昭和初期は非常に公文書の

管理が疎かであった。明治の初期は国家を挙げて全ての文書を残すというくらいしっかり管理していた。その間の疎かであった時代に公文書が出ていってしまったのではないかと思う。先程のケースも同様であると思う。

(委員) 話が変わるが、先程の 78 箱の中に東内村の文書があった。明治の 30 年代の鹿教湯の観光温泉保養地域としての沿革が良くわかるような文書である。今も県立歴史館で持っているので、機会があったらぜひ計画的に協議していただいて写真を撮らせてもらい、その複写をこちらで収蔵するようにしてもらおうと有難い。例えば温泉の繁華街の様子や人力車数の統計など、温泉街を訪れていた客の様子等がわかる文書なので、県立歴史館の担当者も承知しているので、上田市からそういった相談があれば御協力していただけたらと思う。また、ここに移管される前の旧村単位で保管していた文書はそれぞれ整理して目録を作っていたと思うが、特に浦里地域は一度しっかりした目録を作ったと記憶している。今後、そういった目録が見つかったらここで残してもらいたい。過去の先輩たちが目録作りをやってくださったことで今私たちがどれだけ助かったかを考えると、例えば浦里の目録の整理者は既にお亡くなりになった方だと思うが、20 年前くらいに一度整理なさって公民館にきちんと入れていらっしゃると思う。塩田地域も旧町単位で同じように目録を作っていたと思う。ちなみに武石地域では目録作りをしていないし、庁舎を作った時に文書を大量に廃棄したと思うのだが、わずかに 451 点しか明治からの文書が残されていない。他の町村と比べ、非常に残念だ。決算書が多く、議事録も多少あったと思う。かつての国道の経過などを調べたくとも、資料が少ないため検証が出来ない。地域間で文書の保管状況に偏りがあるので、出来る限りどの地域もしっかり文書を残してもらおうよう気を付けて欲しい。

(委員) 公文書館に既に移管されていると思うが、塩田支所、川西支所、市立図書館にも旧役場文書が保存されていた。図書館には過去に作成したであろう手書きの目録が残されていたと思う。また、武石地域の施設にも取り壊されていなければ、まだ文書が保管されている可能性があるので、機会があれば確認してみて欲しい。真田地域も丸子地域も自治センター庁舎内にまだ文書が保管されている可能性がある。

(委員) 今のお話にあったように、目録の他に書庫の文書保管状況の写真も 1 枚でも 2 枚でもあると良いと思う。確か、真田地域の山家神社の手前に 10 年位前まで古い学校風の建物が残っていたと思うが、旧長村役場の建物の一部で取壊しの時に旧役場文書が出てきたようである。だから、どういう風にどこに保管されていたか様子がわかる記録みたいなものを今後残してもらえると有難い。例えば、西塩田村の文書は大変良く残っていて、現在さくら国際高等学校の校舎として使用されている旧西塩田小学校校舎の現役時代は 2 階に郷土資料室があり、文書も整理されていて、生徒も閲覧をすることが出来た。学校が閉校になって鍵がかけられるようになり、上田市誌を作る時に考古資料を見せてもらったり、写真を撮らせてもらったりした。行政文書がしっかり残せた村は学校に文書を寄贈していた傾向がある。学校側もそれを子供たちに見せるためにきちんと整理して保管していた。その後、さくら国際高等学校で旧校舎を使用したいという話があった時には、一部資料を市立博物館へ収蔵したものの、他の資料は涙を吞んで廃棄した。当時、生徒も文書を見られる状況にあったことから、その地域の心意気がわかるような気がした。逆に資料室などが整備されていない学校がある地域は、行政文書の扱いも疎かであると思う。そんな相関関係が見えてくる。したがって、上田市も社会教育を進めていくとなると博物館や公文書館も大事にしなければならぬし、行政文書も上手く使っていくことが大切であると思う。

(委員) あともう一つは市全体の問題であるが、それぞれの市誌を作った時の資料をどう扱っていくか。上田市も膨大な資料が未だに櫓下の庁舎に残されていると思うが、あれも出来れば早く整理をして公開してもらいたいと思う。日本全国にこういった公文書館が出来るまでに 2 つの道筋があって、1 つの

道筋が自治体誌の後始末であると思う。集めた資料が受け皿となる公文書館に行くべきであり、何とか移管し、公開できるようにして欲しい。今の職員数では難しいようであれば、方向性だけでも決めておくと思う。また、情報だけ掴んでおいて、1年に1回現地を確認する等の作業を実施するだけでも違うと思う。

(2) 令和6年度事業計画について

○事務局より、資料に沿って説明

○意見・質問等：次のとおり

(委員) デジタルアーカイブについて、デジタル化したデータは劣化する可能性もあるため、未来永劫は保管しておかないとうことでよろしいか。

(事務局) デジタルデータも未来永劫のものではなく、またフォーマットも変わっていくということもあり、時期ごとに違う媒体にそれを移していく作業は今後必要になってくると思っている。

(委員) そういった基準があれば良いと思う。昔、マイクロフィルムはアナログな世界で、公文書をマイクロフィルムで撮影すると原文書を廃棄しても、マイクロフィルムのデータに原本性があるという法的な位置付けがあった。恐らくデジタル技術の保存媒体も時代によって変わっていき、デジタルデータも劣化していき、そこに標準的な世界基準があれば良いと思う。一時的に見せるものであれば良いのだが、未来永劫保存するデータを残すとなるとその手立てを考えないといけない。

(委員) 公開済みの5点のデジタルデータについて、デジタル化しておかなければならなかったものか、それともデジタル化して公開したかった文書かどちらなのか。

(事務局) 5点については試行ということもあり、特色のある資料からやってみようと5点を選定した。デジタル化をする目的もいくつかあるのだが、文書を公開して公文書館を知ってもらいたいということ、また、古い資料は紙も朽ちてくるためデジタルデータとして保存をしておくというようなことが挙げられる。松本市や安曇野市に視察に行った際に、文書を大量に撮影し保存するといった事業に取り掛かっていた。当市はまだ5点のみであるが、こういった事業に着手していかなければならないと認識をしている。公開も進めていきたいが個人情報部分のマスキング等の基準も踏まえる必要がある。パソコンのソフトでマスキングを施す技術もあるようなので、研究しながら公開を進めていければと考えている。

(委員) 4、5年前の情報で最新の情報ではないかもしれないが、保存目的の高彩度の撮影の標準的なマニュアルだと国内では国文学研究資料館が文学だけでなくアーカイブズの文書も取り扱っており、そちらで撮影のマニュアルを公開しているので参考にしてもらおうと良いかもしれない。更新されているかどうか確認し、提供をさせてもらいたいと思う。デジタルデータの長期保存の技術開発の状況だが、各会議等の情報を見ても決定的なものはまだ開発途上のようなものである。国内だと三菱製のDVDで100年耐用するというものが数年前に発売されたようであるが、定期的にチェッカーを使って見えない劣化をチェックしていく必要があるようで、少し専門的な知識が必要になってしまう。国内だと、先進的な取り組みとして沖縄県の公文書館で交付金を活用し、琉球政府時代の文書を全部保管する事業があり、それはそのDVDを導入していると聞いている。様式によっては、一般でのパソコンの呼出が難しいところもあるようで、なかなかハイテク技術の普及にはまだ壁があると感じている。ここに入れておけば安心ということではなく、定期的に入れ物を変えていくことで各館対応しているようである。入れ物を変える時に写真そのものを取り直しということにならないよう、各館の職員も気を付けているようであ

る。いくつかの拡張子で保管しておけば良いかもしれない。

(委員) 例えば絵図面であるとか歴史的な公共建物の経過が記載されているような外部に向けて PR できるような資料はあるか。

(事務局) デジタル化した 5 点を選ぶ際に、絵図面が入った文書も選定している。今後も貴重な資料を発掘していきたい。

(委員) 県立歴史館の資料の中には昔は原本が閲覧できた資料も、現在は劣化防止のため、デジタル化した資料を画面上で見るようになってきている。本当に見たいところが見辛い時があり、不便と感ずることもある。先程のお話にあるように、もう少し周りの状況を見ながらデジタル化に関しても研究を重ねてみてはどうか。上田市公文書館はまだデジタル化に力を集約するような段階ではないのかもしれない。

(事務局) 継続して試行錯誤しながら少しずつ進めていきたいと思う。ニーズを聞きながら出来れば良いが、まだそこまでニーズというものが感じられない状況もあり、着手しながら色々考えていきたい。

(委員) 庁舎建替えの際に映像資料のようなフィルムは見つからなかったか。

(事務局) フィルムは見つからなかった。

(委員) 視聴覚資料の取扱も大変難しく、低温での保管を求められるものもある。また、定期的にフィルムを伸ばすなどメンテナンスが必要な場合もある。種類によっては酢酸の臭いが発生する等デリケートなものもあるので、こういった資料も紙資料と同じくデジタル化を進めていくことが良いと言われている。

## 7 その他

### ○事務連絡

(閉会)